2023年6月5日
プリマハム株式会社

2022年度「当社取締役会の実効性評価」分析結果の概要と今後の対応ついて

当社は、取締役会の機能向上を図るための取り組みとして取締役会の実効性評価を実施し、その分析結果の概要をお知らせいたします。

1. 分析・評価方法

当社取締役会は、2022年度における取締役会の実効性を分析・評価するため、2023年4月に外部機関の助言を得ながら取締役会の構成員である全ての取締役・監査役に対し、アンケートを実施いたしました。

回答方法は、外部機関に直接回答することで回答者の匿名性を確保いたしました。外部機関からの集計結果を踏まえた上で、2023年6月の当社取締役会において、分析・議論・評価を行いました。

2. 評価項目

アンケート内容の大項目は以下の通りです。

(ア) 取締役会の構成
(イ) 取締役会の運営
(ウ) 取締役会の議論
(エ) 取締役会のモニタリング機能
(オ) 社外取締役のパフォーマンス
(カ) 取締役・監査役に対する支援体制
(キ) トレーニング
(ク) 株主（投資家）との対話
(ケ) ご自身の取組み
(コ) 委員会の運営

3. 評価結果の概要

取締役・監査役が9割超の項目を「問題なくできている」と評価し、また「総じて、取締役会は実効的に機能しているといえるか」の項目に比較的高い評価がなされたことから、当社の取締役会の実効性は概ね確保されているとの評価結果が得られました。一方で、以下について、改善の余地があるとの指摘がなされました。

(イ)取締役会の運営

・事前の検討が十分に可能となる適切な時期の資料提供
・必要な情報が網羅された資料の提供

(ウ)取締役会の議論

・経営戦略・計画の十分な議論

・経営計画の進捗状況に関するフォローアップ

・最高経営責任者（CEO）等の後継者計画の運用への主体的な関与

(カ) 取締役・監査役に対する支援体制

・職務執行にあたり必要となる情報が適切に提供される体制の整備

(ク) 株主（投資家）との対話

・株主（投資家）との対話のフィードバック

4. 前回評価結果を踏まえた取組み

2021 年度の取締役会実効性評価により課題として認識した「取締役会の議論」に関して、以下の見直し、課題解決に取り組みました。

【経営計画の進捗状況に関するフォローアップ】

取締役会では、四半期の職務執行状況報告での共有や、経営会議での投資案件レビューの充実により、議論の活性化に繋げました。

5. 今後の課題への対応

今回の評価結果から、以下を重要な課題と認識し、対応を検討してまいります。

(イ)取締役会の運営

・事前検討が可能となる適切な時期の資料提供のため、社内のスケジュール早期化、事務局担当者の増員に取り組みます。また、役員の検討時間の確保と内容理解を目的として一部議案の事前説明の機会を設けます。

・必要情報を網羅した資料提供のため、事務局及び作成部署での事前確認作業による改善を図ります。

(ウ)取締役会の議論

・経営戦略・計画の十分な議論という課題がみられたことから、経営戦略や事業ポートフォリオの議論の場を設けることと、経営計画の分析の充実を図ります。

・経営計画の進捗状況のフォローアップについては、以前からの継続課題として認識しております。10 月頃に「経営計画の進捗状況」の定量・定性の両面での中間報告実施を検討します。

・後継者計画について、社内での候補者選抜等の対応を検討します。

(カ)取締役・監査役に対する支援体制

・工場視察及び新任役員対象の業務内容の説明について、引き続きの実施と内容の充実を図ります。

(ク)株主（投資家）との対話

・株主（投資家）との対話のフィードバックについては、さらなる情報共有の機会を設けることを検討します。

上記の点に留意し、取締役会の実効性評価を更に向上させ、コーポレートガバナンスのより一層の強化を図ってまいります。

以上